

8. 京都府北部 ACTR 展示・「フィールドレポート」

長谷川巴南

1. 企画展「ふるさとミュージアムコレクション」における ACTR 成果展示

2021年2月～4月京都府立丹後郷土資料館の企画展「ふるさとミュージアムコレクション」において歴史学科が京都府北部で行った地域貢献型特別研究（ACTR）である綾部市光明寺文書調査、舞鶴市木船衛門文書調査、京丹後市丹後ちりめんアーカイブ調査、宮津市丹後行場調査、宮津市由良の由良神社棟札・文書調査の成果が展示された。

展示の内容には、それぞれの調査に参加した学生が関わった。文化情報学研究室は、木船家文書・由良神社文書の中から、展示品を選び、キャプションを作成した。木船家文書では大庄屋・木船衛門と田辺藩の農業政策に関する史料、疫病が流行した際に野草を薬として民間療法を村民に伝えた史料を紹介した。由良神社文書では、旧日本海軍の艦艇・軽巡洋艦「由良」に関する史料を展示し、由良の乗員が武運長久を祈って神社に祭祀料などを奉納したことや、全乗員約500名による参拝が確認できる史料や、「軍艦由良」と刻印された貴重な軍艦印が押印された史料を紹介した。

会期 2021年2月20日（土）～4月4日（日）

場所 京都府立丹後郷土資料館

2. 「フィールドレポート」発刊

上記の「ふるさとミュージアムコレクション」での成果報告展示と併せて、歴史学科が京都府北部で行った、地域貢献型特別研究（ACTR）の成果を「フィールドレポート」として刊行した。内容は、綾部市光明寺文書調査、舞鶴市木船衛門文書調査、京丹後市丹後ちりめんアーカイブ調査、宮津市丹後行場調査、宮津市由良の由良神社棟札・文書調査の概要が収録されており、丹後郷土資料館、舞鶴郷土資料館、学内など関係機関にて配布した。「フィールドレポート」の編集は学生が行い、歴史学科の幅広い調査の成果を広報することができた。



写真1 企画展を観覧する様子

京都府立大学文学部歴史学科

フィールドレポート

2021年2月20日発行

2020年度 ACTR 成果報告展示

2021年2月20日～4月4日まで京都府立丹後県土資料館にて、京都府立大学が2020年度に京都府北部各地で行った地域貢献型特別研究（ACTR）の成果報告展示を実施しています。調査は京都府立丹後県土資料館と共同で実施しました。「フィールドレポート」ではその調査の様子や、展示の紹介をします。

湯舟坂

考古学研究室では京丹後市にある湯舟坂2号墳や国の重要文化財に指定されている出土品の再調査を発掘以来40年ぶりにおこなわれました。写真は龍で装飾された大刀をはじめとする出土品の集合写真を撮影している様子です。学生にとってもセッティングなどの撮影補助を通じて、めったに触れられない重要文化財をまじまじと観察する貴重な機会となりました。



▲湯舟坂撮影風景



▲鏡子の滝

世屋

丹後半島には日本海側屈指の山寺である成相寺やそれと密接に関わる修験者の行場跡が点在します。今年度は、その一つである宮津市上世屋の慈眼寺を調査しました。これにより、明治時代以前の寺の由緒や成相寺との関係についてわかりました。また、聞き取り調査から、慈眼寺付近の鏡子の滝で、かつては雨乞いの儀式がおこなわれたことがわかり、周辺にあった聖場の様子について、その一端を明らかにすることができました。

京丹後

丹後ちりめんアーカイブの構築



▲「丹後縮緬」の調査風景

丹後縮緬同業組合（現・丹後織物工業組合）の機関誌である「丹後縮緬」（1922年発行）をデジタルデータ化し、デジタル・アーカイブとして公開することを主たる課題として活動しています。「丹後縮緬」は組合員にむけて有用な情報を提供することを目的に発行されたもので、丹後縮緬業界の動向を詳細に知ることができる重要な史料です。今年度は、戦前部分の撮影を行うこと、近世以降の史料の解説に集中して取り組みました。

綾部

綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用

この調査では、「森の京都」綾部市上林の歴史を地元の方々と一緒に探っています。上林小学校とのコラボ授業では若尾山光明寺や永勝寺の文化財を調査しました。子どもたちは、地元の方々に聞き取り調査をした成果を文化祭で発表し、地域の歴史の継承につとめています。光明寺での調査は、建造物や古文書類さらに古道におよぶ総合調査で、調査成果を活かして、国や京都府・市の文化財指定が進められています。



▲上林小学校の児童と聞き取り調査



▲若尾山光明寺での経巻調査

舞鶴

舞鶴市東舞鶴地区の文化資源の発掘と活用

舞鶴のACTR調査は、2013年より現在まで8年目となりました。今年は舞鶴東地区の大庄屋木船家文書館の実施しています。舞鶴市郷土資料館のご協力のもと、舞鶴地方史研究会とともに、古文書への番号ラベル貼り、撮影、目録の作成等です。江戸時代の田辺藩に大庄屋は8人いましたが、村・庄屋と藩・代官の間によって調整を行ない、両方の意見を要望を聞いて行政を進める重要な役割でした。今も昔も中間は苦労が多いようです。

由良

宮津市由良地区の文化遺産の発掘と活用

この調査では、北前船で栄えた宮津市由良地区の文化遺産を発掘し、考古・文書・建築・景観などの観点から総合的に価値付けを目標としています。地区の中心にある由良神社（旧名称：熊野十二社大権現・熊野三所権現）からは、北前船の船持が本殿の建設や維持に関わったことを示す機札や、同じ名前の軍艦「由良」とのかかわりがわかる記録が見つかりました。由良地区にはまだまだいろいろな文化遺産があり、今後も引き続き「発掘」していく予定です。



▲舞鶴市郷土資料館で撮影中



▲由良での建造物調査



▲発見された軍艦「由良」関連文書

写真2 フィールドレポート紙面